



国際ロータリー第2600地区
上田六文銭ロータリークラブ
 Rokumonsen Rotary Club

2016-17年度
 国際ロータリー会長
 ジョン F. ジャーム

第2600地区ガバナー 原 拓男

【事務局】

〒386-0025 長野県上田市天神 4-24-1
 上田東急REIホテル 3F
 TEL 0268-25-6000 FAX 0268-25-6002
<http://www6.ueda.ne.jp/~ueda6rc/>
 《例会日》毎週火曜日 12:30~13:30
 《例会場》上田東急REIホテル 2F
 《創立》1997年2月18日

●会長 西澤 文登 ●幹事 松澤 一志 ●会報委員長 中澤 信敏 ●副委員長 鹿志村恭彦 ●委員 中沢利樹男／斉藤恵理子

会長挨拶

講演会の余韻に浸りながら

西澤文登君



創立 20 周年記念事業の締めくくり「山極壽一先生講演会」が盛況のうちに終わりました。皆様本当にお疲れ様でした。飯島委員長、柄澤副委員長はじめ担当委員の皆様、ありがとうございました。お陰様で有終の美を飾ることができました。

山極先生はヒトのヒトたる所以を分かりやすく説明してくれました。人間に与えられた共感力から成る「分かち合い」の精神、共同体に於ける無償の奉仕等々、ロータリーの精神につながるお話もしていただきました。そして、今 SNS などの発達もあり、共同体の構成単位である家族が崩壊しかけていると警鐘も鳴らされました。家族の崩壊は人間性の消失につながります。そんなことが耳から、眼から、胸の奥にストーンと落ちるのを感じました。お話の順序、構成を科学者の眼で分かりやすく組み立てられているのでしょうか。山極先生のすばらしいコミュニケーション力ともいえるべき、お話をされるときの物腰、口調、声のトーンも魅力的でした。こんな話し方を身に着けられたらすばらしいなと思いました。

講演の合間にお話をする機会を持たせて

いただきましたが、いつも相手の眼を見て穏やかに話されます。また講演の後のサイン会で、若者の質問に丁寧に答えられているご様子、懇親会での中国の留学生の皆さんとの会話のご様子など、誰にでも分け隔てなく接する先生のお人柄に感動いたしました。懇親会の二次会の途中までご一緒したのですが、驚いたことに話題がそれぞれ違うのです。お話しに T・P・O があるのです。一緒にいる人を飽きさせない話題の豊富さに驚きましたので、「お忙しいのに、いつ先生は勉強されるのですか？」と尋ねてみました。すると、ジャンルの違う研究者同士の交流を大事にされているというお答えでした。

飯島委員長はじめ多くの方々のご尽力で我々は最高の人を講師としてお迎えできました。沢山の市民の皆さんに先生のお話を聴いていただくことができました。ロータリー関係者だけでなく一般市民の皆さんを対象とした催しは我々として初めての経験です。それだけに不安もあったのですが、会員みんなの力の結集で成し遂げることができました。これは私達の大きな自信になります。やればできるクラブなのです。クラブの持ち味ということを再三申し上げてまいりましたが、これが我がクラブの持ち味なのです。願わくは、この素晴らしい仲間、すてきなチームに新しい血を入れ、これからも世間様により一層の貢献をして行くべきであると、あらためて強く思いました。

出席・ニコニコBOX報告

	ベース	欠席	メイク	出席率
本日	21	2	-	90.48%
前々回	19	5	3	89.47%

プログラム

上田六文銭ロータリークラブ
創立 20 周年記念講演会

京都大学総長 山極壽一氏講演会

演題『共感社会の由来と未来』
～ゴリラの社会から考える～

平成 29 年 6 月 25 日(日) 15:30 開演
上田文化会館大ホールにて

20 周年実行委員長挨拶

飯島俊勝君



私達、上田六文銭ロータリークラブは平成 9 年 2 月 18 日呱呱の声をあげました。爾来、市民の皆様や多くの方々のご支援とご理解

をいただき創立 20 周年を迎えることができました。本当に有難いことだと思っております。

そして、今年度、クラブテーマ「共に生きる!」を掲げ活動し、周年記念事業の一つとして市民公開記念講演会を開催するべく準備をして参りました。

さて、現在、私たちが、生かしている社会における、人々有り様が、本当にこれでよいのか。共に生きるための最低限の社会の秩序や、規律が失われてきているのではないかと。国内外を問わず、「自分

が一番」「自分さえ良ければ」「他の事は考えない、関知しない」こんな風潮が蔓延してきています。

人は一人では生きていけません。「共に生きる」共生の社会を再構築していくべきだと思います。

その時脳裏に浮かんだのが、平成 27 年 10 月 25 日上田市浄楽寺でお聞きした、京都大学 山極壽一総長のお話でした。私達の遠い先祖、いや、近い先祖である「ゴリラの話」をもう一度お聞きしたい。日に日にその思いが募り、山極勝三郎顕彰会前代表幹事 岡崎光雄先生、浄楽寺 滋野眞住職のお力をいただき、京都大学秘書課へメールを発信し続けました。そして、創立 20 周年式典を迎える前日 2 月 20 日、総長様のご理解で本日の 6 月 25 日で調整をしております。と、やっと朗報が届きました。そして、私達の思いを汲んでいただき、先生から演題「共感社会の由来と未来」～ゴリラ社会から考える～をいただくことができました。

先生のプロフィールはご紹介するまでもありません。今回のポスター、チラシにも記載させていただいておりますのでご覧ください。

なお、大変お忙しい山極壽一総長はさらに 6 月 14 日一般社団法人国立大学協会の会長にも推挙され、ご就任なさいました。より多忙になるお身体を心配いたしますが、就任のお祝いを申し上げご紹介とさせていただきます。

総長様には上田においでいただきましたことに心より感謝申し上げます、ご来場いただきました皆様方にも御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。





アンケートは、当日 78 名の方より回答いただきました。

講演会後のサイン会長蛇の列ができました。

18:30～ 懇親会

ささやにて



映画
「うさぎ追
いし 山極勝
三郎物語」
永井プロデ
ューサー

